

logicool®

# よりよい機能、管理体制、インサイト。

BYODからMicrosoft Teams専用会議室にアップグレード



## はじめに

多くの組織のIT部門と対話する中で、何度も繰り返される話題がありました。すべてまたは一部の会議室が、ディスプレイと基本的なプラグ&プレイ対応会議用カメラが設置されているのみであるなど、備え付けのハードウェアが限られているということです。そのような環境では、従業員が会議に参加する際、会議室に個人のデバイス（通常はノートPC）を持ち込まなければなりません。

このような状況でハイブリッドワークを効果的に実施できないことは明らかです。基本設備のみの会議室の機器管理は簡単ではありません。通常は、IT担当者が各会議室を「見回り」、機器が正常に動作していることを確認するか、

機器の不調を誰かが知らせてくるまで待機するといった状態になります。また、ビデオ通話を行っている会議参加者同士の会議体験も理想的な（あるいは公平な）形になりません。

これを改善しましょう。本記事では、BYOD（Bring Your Own Device）の会議室を、Microsoft Teams専用会議室に移行するメリットを紹介します。IT部門には監視と管理面のメリットがあります。またエンドユーザーには、生産性が高く公平な体験を提供できます。それでは、Microsoft Teams専用会議室の機能とメリットを詳しく見ていきましょう。



## そもそも会議室をBYOD用にセッティングするのはなぜか

BYOD会議室では、ユーザーと個人所有のノートPCが、会議実施の中心的な役割を担います。ユーザーのノートPCが、会議のホスティングとカメラのコントロールを実行することになります。このような会議室では、ユーザーのノートPCに依存することで汎用性を確保し、Microsoft Teamsにとどまらない、広範囲にわたるコラボレーションプラットフォームに対応しています。

ハードウェア面を見ると、一般的なBYOD会議室には、映像用ディスプレイ、会議用カメラ（ロジクール MeetUp、Rally Bar、Rally Bar Mini、Rally Bar Huddleなど）、カメラコントロール用のUSB-C to USB-Aケーブル、

ディスプレイ拡張またはミラーリング用HDMIケーブルといった機器が用意されています。

BYOD会議室は柔軟性が高いのですが、Microsoft Teams専用会議室にアップグレードすると、BYODを超えるメリットを得ることができます。Teams Roomsを使用すると、エンドユーザーは高度なコントロールなどの機能が利用できます。また、IT部門は優れた管理機能を利用できるようになります。次のセクションでは、移行に伴うメリットの概要を説明します。





## Microsoft Teams 専用会議室とは

**Microsoft Teams 「専用」 会議室**とは、Microsoft Teams 環境をそのまま運用できる設備を持つ会議室です。これは、以下のいずれかで実現します。

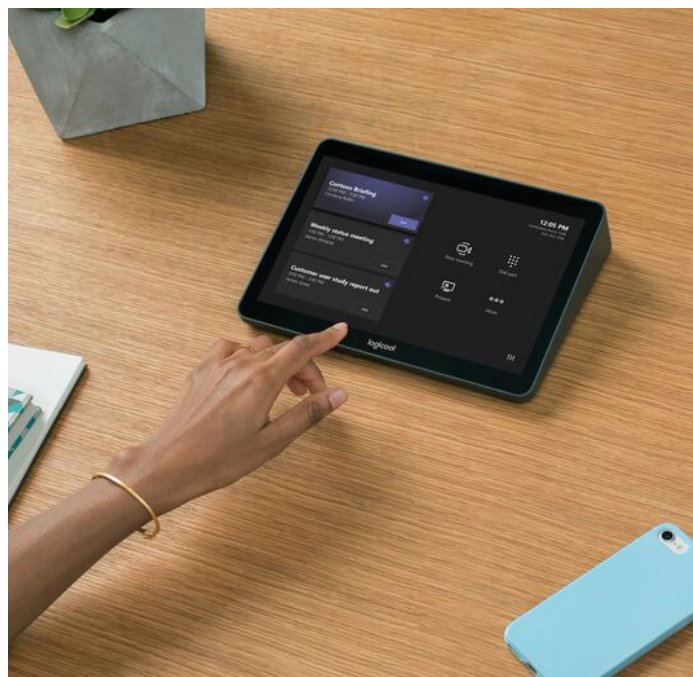
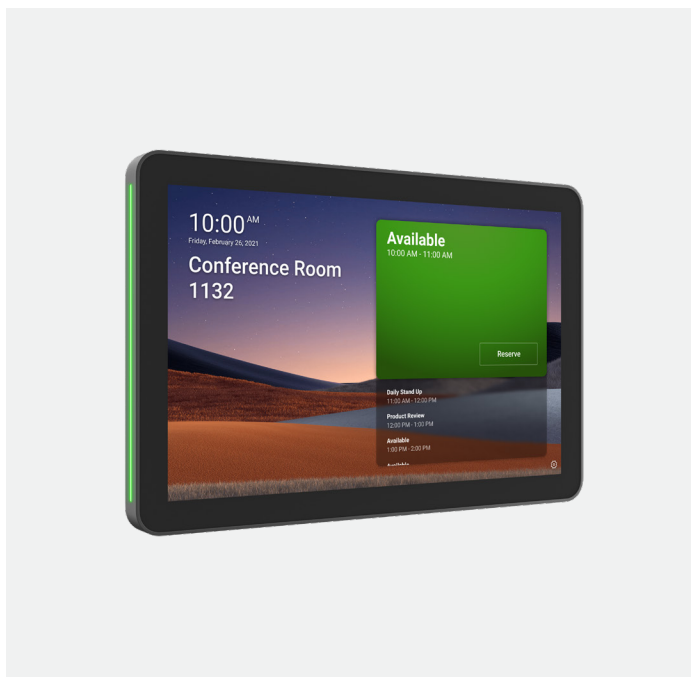
**Teams Rooms on Windows :** WindowsでMicrosoft Teams Roomsアプリを実行する専用PCが必要です。専用PCは、会議室コントローラ、映像ディスプレイ、会議用カメラなど、室内の主な会議用機器に接続されます。

**Teams Rooms on Android :** ロジクールRally Barなどのコンピュータ内蔵ビデオバーを、映像ディスプレイに直接接続して使用します。会議室コントローラはRally Barカメラに直接接続するか、Microsoft Teams経由でカメラとワイヤレスでペアリングし、スタンドアロン機器として使用します。

ロジクールでは、Rally Bar、Rally Bar Mini、Rally Bar Huddleなど、さまざまなAndroidベースの機器（アプライアンス）を提供しています。ロジクールRally カメラやRally Plus Systemなどのアプライアンスではない機器を備えた会議室では、Androidベース コンピュータとしてロジクールRoomMateを追加できます。会議室コントローラについては、ロジクールTap（USBベース接続）か、Tap IP（IPベース接続）のいずれかを選択できるため、さまざまなタイプの会議室や構成に対応します。

## Microsoft Teams専用会議室の機能

Teams専用会議室では、会議室管理から会議中の機能に至るまで、IT管理者とエンドユーザー双方にメリットがあります。



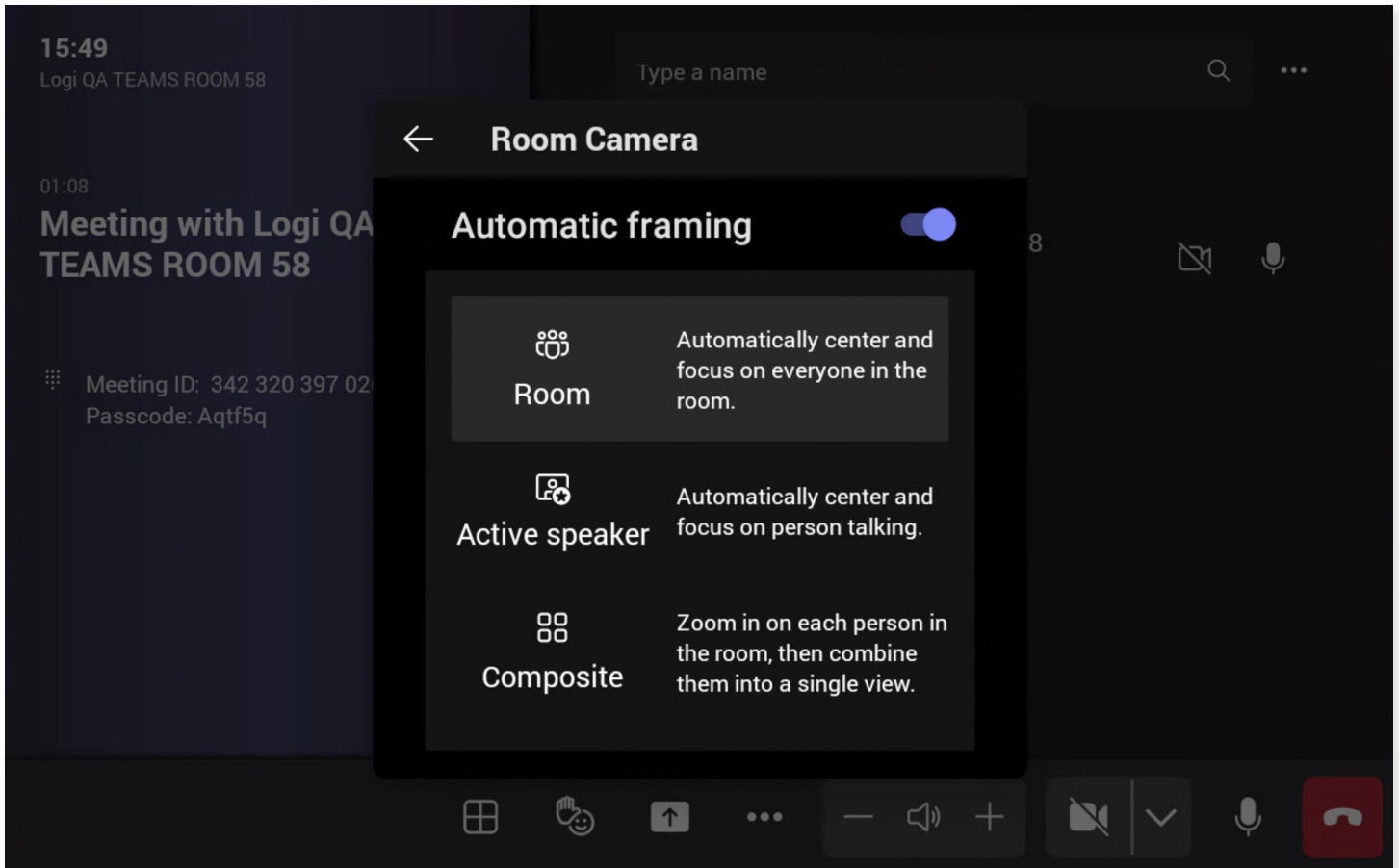
### 会議室の予約

Teams専用会議室は、「予約可能」であることが特長です。ユーザーは、会議のスケジュールを設定するだけでなく、特定の目的で予約することもできます。予約内容は、会議室内の映像ディスプレイとTapデバイスの両方に表示され、会議室の空き状況をすぐに確認することができます。Tap Scheduler Teamsパネルが設置された会議室の場合、赤または緑のライトが点灯するため、会議室の外からでも空き状況がわかります。エンドユーザーにとっては、会議スペースの場所確認と予約がしやすくなるというメリットがあります。

### 会議への参加を効率化

Teams専用会議室の利用は簡単ですが、これは会議への参加においても同様です。予約済みの会議はTapコントローラに表示され、ワンタッチで会議に参加できます。また、臨時的な会議は[Meet (会議に参加)]ボタンで開始できます。予約なしで実施中の会議の場合、「会議IDで参加」機能で参加することもできます。以上のような機能によって、会議室で使用するケーブルの数が減り、個人のノートPCを持ち込む必要もなくなります。ただ会議室に入り、Tapコントローラで直接会議に参加するか、会議を開始するだけでよいのです。

さらに、直接ゲスト参加機能では、会議室を予約してZoomまたはWebexを指定すると、Tapコントローラに会議が表示されるため、ワンタッチ参加でクロスプラットフォーム会議に参加できます。

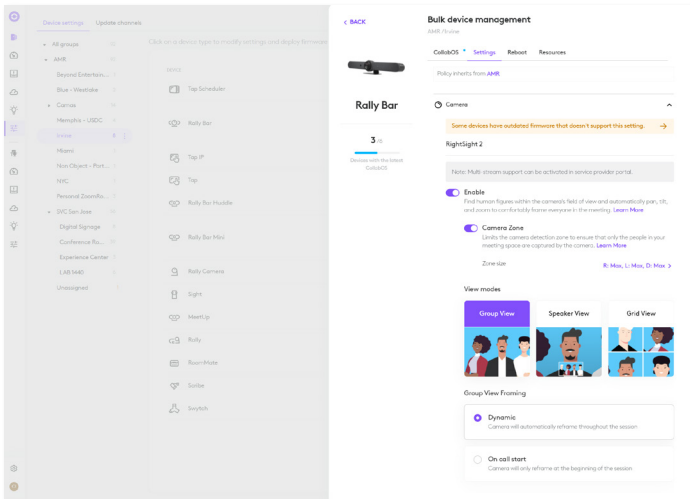


## カメラコントロールの強化

Teams専用会議室は、3種類のカメラビューを提供します。この機能が、ハイブリッド会議中、リモートからの参加者の公平性を改善するために重要な役割を果たしています。以下のカメラビューが利用できます。

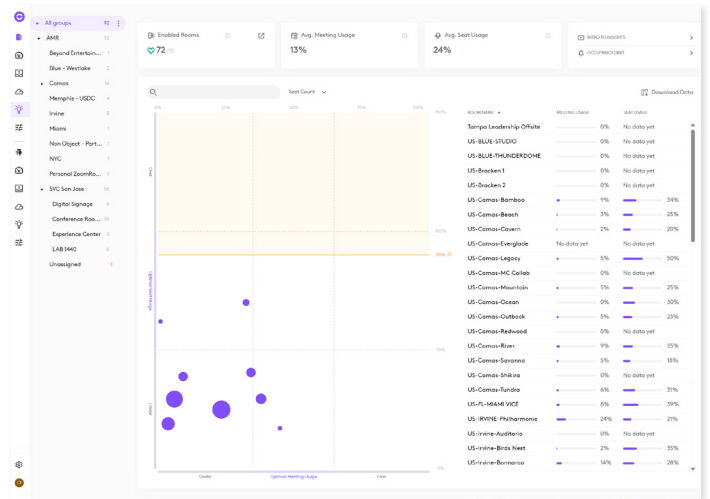
- ✓ **話者ビュー**：このビューでは、現在の話者1名に自動的にフォーカスします。
- ✓ **会議室ビュー**：自動フレーミングで会議室全体を表示します。参加者全員の様子を確認できます。
- ✓ **コンポジットビュー**：カメラが最大4名の参加者を、各自のギャラリー画像内に表示します。

すべてに対応できる1つの機能というものはありません。この3種類のカメラビューにより、最適なカメラスタイルを柔軟に選択し、会議の生産性を高め、公平な参加を実現できます。



## きめ細かな機器設定

従業員にとってのメリットに加え、IT管理者にも、特にデバイス管理の面で多数のメリットがあります。管理者は、CollabOSの設定またはロジカル Syncにより、スピーカー、マイク、カメラの調整に関して、高度な機器設定を行えます。「カメラゾーン」という最新の設定機能では、管理者はカメラがフレーム内とする範囲を指定できます。これは特に、壁面がガラス製の会議室や、大型の窓がある会議室で役立ちます。カスタマイズのレベルが向上するため、ロジカル機器があらゆる形状やサイズの会議スペースに柔軟に対応できるようになります。



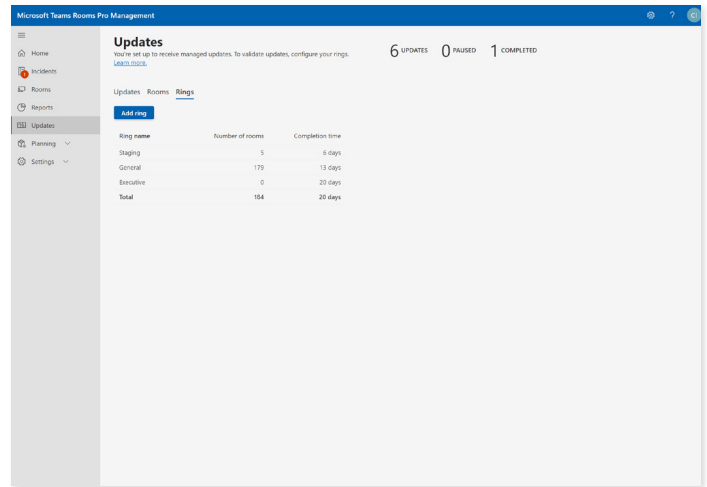
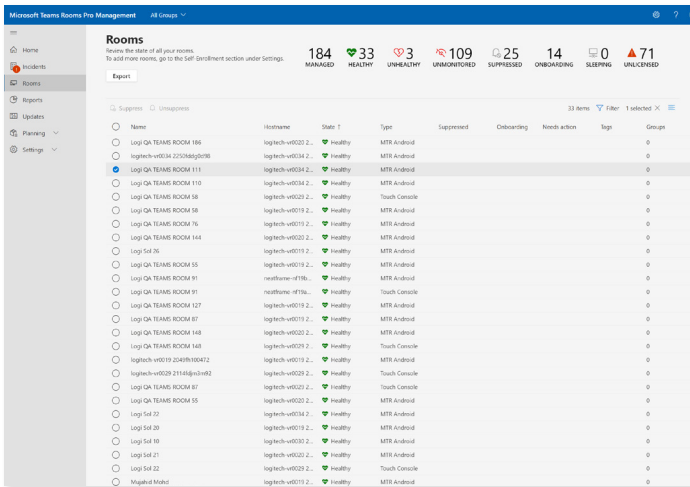
## インサイト

Teams専用会議室では、デバイスと会議室の使用状況データを豊富に利用できます。IT管理者や、関係する施設管理部門などは、このデータを活用して、プラットフォーム、デバイス、会議スペースの使用状況をより詳しく把握できます。

管理者は、Teams Pro管理でオンライン会議分析を使用して、ユーザーが申請してきているチケットや問題の種類、会議室の稼働状況や信頼性の全体像の確認に役立てることができます。IT部門は、このデータを、会議室全体のパフォーマンスを把握し、将来的な改善に向けた指標を設定するために活用できます。

管理者はロジカル Syncを使用して、デバイスがオン/オフになるタイミングによって、会議室の使用パターンを大まかに確認できます。IT部門と施設管理部門は、このデータから会議室の利用状況を把握し、不動産に関する意思決定や、テクノロジーに対する投資の判断の参考にすることができます。





## リモートデバイス監視

Microsoft Teams専用会議室のデバイス監視はTeams Rooms Pro管理で行います。これは、会議室の稼働状況の概要や、その他の問題およびエラーの詳細を提供するリモート管理ツールです。Teams Rooms Pro管理により、管理者はシングルペインビューで会議室の総合的な監視を行うことができます。各会議室を手動で確認する必要はありません。

また、Teams Rooms Pro管理では、レポートタブで会議室の稼働状況や測定値をグループ化した指標のダッシュボードを提供します。このレポートは、IT部門が総合的な改善が必要な領域を特定するのに役立つ重要な情報を提供します。

## アップデート管理

アプライアンスベースのデバイスでは、ソフトウェアのアップデートが必須です。アップデートでデバイスに新しい機能が追加されることも多いためです。Teams専用会議室では、管理者は、デバイスのアップデートプロセスをMicrosoftのリングシステムで管理できます。このシステムで、IT部門はどの会議室やデバイスにアップデートを適用するかなどを定義できます。

管理者の作業は、Teams Pro管理ポータルでリングを作成し、アップデートの待機期間と適用開始時期を設定して、リングにデバイスを指定するだけです。アップデートが利用可能になると、管理者が設定したタイミングに基づき、各リングにカスケード処理されていきます。



## ロジクールSwytchで2つのモードの利点を活かす

BYOD会議室を、Teams専用会議室にアップグレードする多数のメリットについて説明してきました。ただし、アップグレードしても、先述のBYODの汎用性が失われるわけではありません。Teams専用会議室は、ロジクールSwytchを使用すると、BYODモードとの切り替えが簡単にできます。これはDisplayLinkテクノロジーによるケーブル1本で利用可能なソリューションであり、ノートPCを接続するとBYODモードに切り替えることができます。この機能により、ケーブル1本を接続するだけで、Teams専用会議室でもこれまで通りZoomやWebexにとどまらない、他のプラットフォームでの会議に参加できるようになります。両方のモードの利点が活かされるのです。

BYOD会議室をTeams専用会議室にアップグレードすると、会議室におけるハイブリッドコラボレーションを大きく改善できます。Teams専用会議室を利用すると、組織は高度な会議室管理機能のメリットを手に入れ、シームレスで生産性が高く、より公平な会議体験を従業員に提供できるようになります。進化するハイブリッドワークの世界において、Teams専用会議室への移行は、テクノロジーのアップグレードにとどまらず、改善を続けるデバイスとソフトウェアに対する投資であるとおわかりいただけるのではないのでしょうか。

**logicool**

このホワイトペーパーは、情報提供のみを目的としています。ロジクールでは、このホワイトペーパーに記載された情報に関して、明示または黙示または法定を問わず、いかなる保証も行いません。このホワイトペーパーは「現状のまま」で提供されており、ロジクールによって随時更新される可能性があります。

販売代理店または当社  
([www.logicool.co.jp/ja-jp/vcsales](http://www.logicool.co.jp/ja-jp/vcsales))  
までお問い合わせください  
発行 2023年12月

© 2023 Logitech, Logicool. All rights reserved. 株式会社ロジクールは、Logitech Groupの日本地域担当の日本法人です。Logicool、LogiおよびLogicoolロゴは、米国および/またはその他の国における、Logitech Europe S.A.およびその関連会社の商標または登録商標です。その他の商標はすべて、それぞれの所有者の財産です。ロジクールは、この出版物に存在する可能性のある誤記に対して一切責任を負うことはありません。ここに記載されている情報は予告なく変更される場合があります。